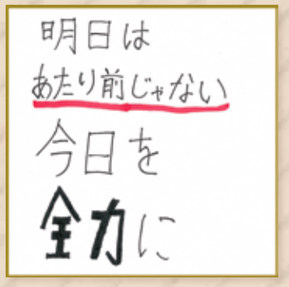
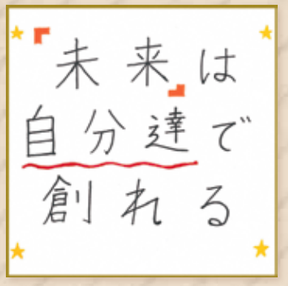
message 平和メッセージ

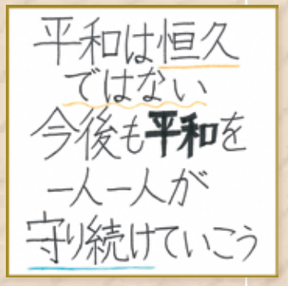
全体メッセージ

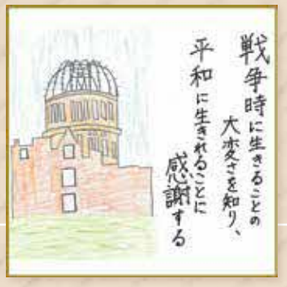
「伝者（でんしゃ）」には広島の出来事を後世に伝える者という意味が込められている。
原爆投下直後に運転を再開した広島電鉄の被爆電車から着想を得ており、デザインには青空の下を走る被爆電車と平和の象徴である鳩が描かれている。
被爆電車の窓には「To peaceful world」との文字があり、未来を照らして走っている。
平和な明るい未来への願いが込められている。

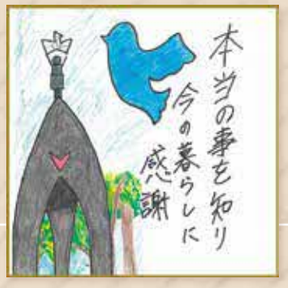
個人メッセージ











[発行] 令和7年 2月　中野区
[担当] 企画部企画課平和・人権・男女参画係
電話 03-3228-8229

中野区

令和６年度 平和の旅 報告書

未来を生きるために 平和について学ぶ旅

次世代向け広島平和学習中学生派遣事業

目次

02 はじめに
03 事前学習会
04 広島派遣
08 事後学習会
09 作文集
背表紙 平和メッセージ

はじめに

平和は当たり前ではないこと 未来を平和に暮らすために 次世代の皆さんが学びました

終戦から７９年が経過した今、私たちは平和の尊さを改めて考える必要があります。世界に目を向ければ戦争や紛争は絶えず、日本を含む国際情勢の緊張は高まり続けています。

今回の平和の旅は、「未来を生きるために平和について学ぶ旅」というテーマのもと、平和な日常が当たり前ではないことを再認識するとともに、平和の大切さを、未来を担う次世代の皆さんと学びました。

平和の旅全体を通じて、参加者一人ひとりが、平和について「自分事として自ら学び考える」ことができるよう努めました。大切なのは、ここで得た知識や体験を、今後の人生の中でどのように活かしていってくれるのかだと思います。

この報告書は、参加した生徒たちの体験の記録であるとともに、生徒たちがどのようなことを感じ、学び、活かそうと思ったのかを綴ったものです。

この報告書を通じて、多くの方々が平和の重要性を再認識し、未来に向けた一歩を踏み出していただければ幸いです。

令和７年２月

憲法擁護・非核　都市の宣言

まちには　こどもの笑顔がある
ひろばには　若者の歌がある
ここには　私たちのくらしがある

海を越えた　かなたにも
同じ人間の　くらしがある

いま　地球をおおう　核兵器は
あらゆる　いのちの営みを
この　しあわせを　奪い去る

私たちの憲法は
くらしを守り　自由を守り
恒久の平和を誓う

私たちは　この憲法を大切にし
世界中の人びとと　手をつなぎ
核をもつ　すべての国に
核兵器をすてよと　訴える

この区民の声を
憲法擁護・非核都市　中野区の
宣言とする

昭和五十七年八月十五日
中野区

事前学習会

日時　令和６年12月８日（日）／13：30～16：30
場所　平和資料展示室（中野区立総合体育館内）

プログラム

1 自己紹介
2 語り部（広島での被爆者）による被爆講話
3 平和についてのグループ学習
4 佐々木祐滋氏による平和に関する講話
5 折り鶴プロジェクト参加

（後列右2人目 佐々木氏）

今年はこの10人で学んできます！

語り部（広島での被爆者）による被爆講話

広島での入市被爆者である片田さんによる被爆者講話を行いました。当時５歳だった片田さんの話を、皆さん真剣に聞いていました。

佐々木祐滋氏による平和に関する講話

広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった、佐々木禎子さんの甥である佐々木祐滋さんに、平和の象徴ともいえる「折り鶴」と佐々木禎子さんに関するお話しをしていただきました。

訪問先紹介とグループ学習

実際に広島で訪れる場所の紹介と、平和に関するグループ学習を行いました。原子爆弾による被害、現代にも残っている戦争の爪痕等の学習、同じ事実に対しての受け止め方の違いについて考えました。

折り鶴を折りました

皆さんで折った折り鶴は「折り鶴プロジェクト」において区民の方々に折っていただいた折り鶴を使って作った千羽鶴と一緒にして、平和の旅の中で原爆の子の像に献納します。平和の旅参加者が中野区を代表して、区民の方々の平和への祈りをしっかりと原爆の子の像へと繋げていきます。

事前学習会において、参加者それぞれの中でいろいろな疑問が沸いてきたようでした。平和の旅当日までの間、それぞれが調べ、今度は広島現地でしっかりと学んできます！

広島派遣

12/21(土)

東京→呉市

❶ 7:00
中野区役所前にて集合、出発

❷ 12:00
広島駅到着

❸ 13:00
呉駅到着・ハイカラ食堂にて昼食

❹ 14:00
大和ミュージアム見学
（ボランティアガイドあり）

❺ 15:45
てつのくじら館見学

● 18:30
ホテル到着（広島駅直結）

❻ 20:30
振り返り学習会

① 区役所前で集合

朝７時の集合は陽射しも少なく寒い中となりましたが、無事に出発することができました。

② 新幹線で広島駅に到着

③ 呉駅到着・昼食

呉ハイカラ食堂にて
鉄板食器に盛り付けられた
潜水艦テッパンカレー

④ 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）

呉市において建造された戦艦大和を 10 分の 1 に忠実に再現した展示のほか、戦艦大和の生存者・遺族の想いなどのメッセージが展示されています。日本の近代化とともに歩んだ「呉の歴史」と、それを支えた造船・製鋼を始めとした各種の「科学技術」を学ぶことができます。実際に体を動かし体験するタイプの展示もあり、楽しみながら学ぶことができました。

ボランティアガイドさんから戦艦大和と戦争の歴史について学びました。そのスケールの大きさと当時の過酷さが伝わってきました。

⑤ 海上自衛隊呉史料館（てつのくじら館）

「てつのくじら館」では、潜水艦と掃海作業について学ぶことができます。
戦時中に海に撒かれた機雷が今でも残っている現実から、戦争は過去のものではなく、現代にもその傷跡を残していることを実感しました。

⑥ 振り返り学習会

広島市内のホテルに到着し、夕食後に、１日目の振り返り学習会を行いました。参加者からは「戦艦大和で亡くなった人の名簿が印象に残っている。」「今日は大和ミュージアムで、戦死した人について学んだが、明日は日常生活を送っていただけで原爆により命を奪われた人たちについて学びたい。」「戦争で亡くなった人たちのことを思うと、今日自分が生きていること、ご飯がおいしいこと、平和であることに感謝したいと思った。」等たくさんの意見が出ました。

広島派遣

12/22日

広島市→東京

- **8:00** ホテル出発
- **7 8:45** 平和記念資料館見学（イヤホンガイドあり）
- **8 10:20** 平和記念公園内の碑巡り（ボランティアガイドあり）
- **9 11:20** 本川小学校平和資料館見学
- **10 12:00** むすびのむさし土橋店にて昼食
- **14:00** 広島駅出発
- **11 18:45** 中野区役所前にて解散

⑦広島平和記念資料館

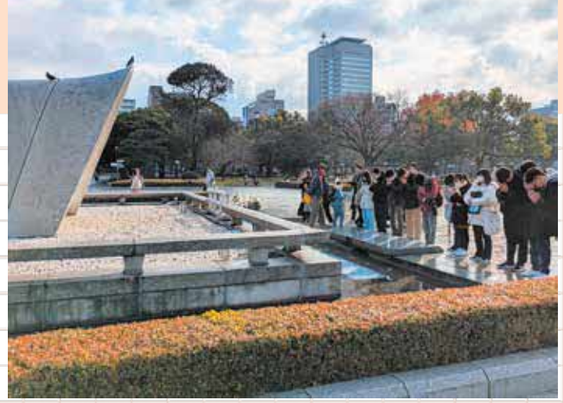
広島平和記念資料館では、原子爆弾が燃え広がる様子を映し出すＣＧ展示や、被爆したまちの残骸から原子爆弾の威力を学習しました。実際の遺品の展示や、目を背けたくなるような写真もありましたが、参加者は展示を見つめながらしっかりと学んでいました。

佐々木禎子さんが病床で折り続けた折り鶴

⑧広島平和記念公園（碑巡り）

広島観光ボランティアガイドによる説明を受けながら、公園の碑巡りをしました。
教科書などで見たことがある場所も、改めて現地を視察して説明を聞くと学ぶことが多かったようです。

Ｇ７広島サミット記念館



原爆死没者慰霊碑に献花を行いました。

ボランティアガイドの説明を受ける参加者たち

⑨本川小学校平和資料館

爆心地から至近距離で被爆した本川国民学校

地下室を中心に当時の焼け跡が残るなど、原爆の被害を受けた状態をそのまま保存されています。

原爆の子の像では、「折り鶴プロジェクト」で区民の方々に折っていただいた折り鶴で作った千羽鶴を献納しました。
区民の方々の平和への願いは、平和の旅参加者が中野区を代表としてしっかりと広島へと繋ぎました。
この千羽鶴には、事前学習会において平和の旅参加者が折った折り鶴も含まれています。

⑩昼食

むすびのむさし土橋店にて広島名物お好み焼き

⑪区役所前で解散

２日間でたくさんのことを学びました。片道約４時間の長旅だったので、しっかりと体を休めて、事後学習会でまた会いましょう。

事後学習会

日時　令和６年12月26日(木)／13：30～16：30
場所　平和資料展示室(中野区立総合体育館内)

プログラム

1 旅の振り返り
2 平和メッセージ作成・発表

今までに学んだこと、考えたことを振り返りました

平和の旅後の令和６年１２月２６日、再び平和資料展示室に集合し、事後学習会を実施しました。事前学習会から始まり、旅当日、その後自ら学んだことについて、改めて皆さんで共有しました。時間が経ってみて、参加者が「相手に伝える」ことを意識しながら発していた言葉が、それを聞いている一人ひとりに新たな気付きを生んでくれているようでした。

平和メッセージ

平和のために自分たちは何ができるのか
どうしたら平和になるのか
皆で話し合いながら、参加者それぞれが
伝えたい「平和メッセージ」を考え
その思いとともに発表しました。

※１名体調不良により欠席

平和について
何を思い
何を感じて
どう考えたのか
それぞれに言葉を紡いでもらいました

作文集

表現等は生徒の意思を尊重し、そのまま掲載しています

長崎と広島

伊藤 日向

message 平和メッセージ

明日はあたり前じゃない
今日を全力に

僕は今回の平和の旅を通して感じたことがいくつかあります。

一つ目は今ある環境が決して当たり前ではないということです。なぜなら広島や長崎の人々はある日戦争が始まりそしてある日原爆の被害に遭われてしまったからです。今僕たちは何もかもが当たり前かのように生きてますが広島に行った時に当時の写真に笑顔の子供は全くいませんでした。皆必死に生きようとしていたり、家族を探していたりやけどの痛みに耐えている子供達ばかりでした。僕は今毎日何不自由なく生きていて、たまにわがままも言ってしまいますが彼らは何も言わずに毎日苦しい思いをして生きているので今自分たちは贅沢をしているということを痛感しました。

二つ目は今僕たちは明日があることが当たり前かのように過ごしていますが明日は必ず来ますが何が起こるかわからないのでこれからはその日中にできることは何ごとでも必ずすますようにします。また平和記念公園で花をお供えしたときに曇りだった空がだんだん晴れました。僕はその時とても複雑な気持ちになりました。なぜなら初めての体験だったからです。とても偶然とは思えませんでした。嬉しいような何か力をもらったような気がしました。もっと戦争が知りたいと思うようになりました。

三つ目は戦争は当たり前ですがとてもとても残酷でひどいものだということです。戦争が始まると毎日を共にしていた仲間や友達、家族と離れ離れになり、もしかするともう二度と会えなくなるということが起こります。広島の平和記念資料館で８月６日の早朝にある女性が夫さんに“行ってらっしゃい”と言ったのが最後でその後原爆の被害に夫さんがあって帰らぬ人となったというコーナーを見て、なぜこの人は戦争に加担していないのに原爆の被害にあったのかと思いました。この方に限ったことではありませんでした。原爆の被害に遭われた広島・長崎の被害者の約２１万人それぞれの人生を歩まれていた方々が命を２発の原子爆弾で落とされたと思うととても理不尽で残酷だと思いました。

繋ぐ

大崎 陽真

message 平和メッセージ

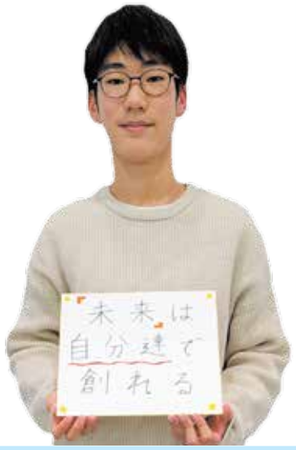
「未来」は自分達で創れる

今回初めて広島に足を運ぶ機会をいただき、短い時間でしたがたくさんのことを学ぶことができました。これからの未来を創る、創造する一員である僕がどんな未来・どんな世界にしたいかを改めて考える機会になりました。当たり前かもしれないけれどとにかく「平和な世界にしたい」と心から思いました。平和な世界とは、武器を持たず、紛争や戦争がなく、皆に平等な権利が与えられる世界のことだと思います。そんな世界にするためには、まず過去に起こったこと・過ちを自分事として学び、未来に同じことを繰り返さないよう継承し続けなければなりません。

戦争は人間の生命だけでなく、家族、生活、文化、資源、景観、自然など多くのものをことごとく奪う非情なもので、新しいものや幸福に満ちたものは何も生まれないと思います。広島平和記念公園で犠牲になった人たちの生命の上に（地面の下の命を感じて）自分が立っているということを改めて感じたとき、胸が詰まるような、経験したことのない感情に襲われました。ここで息絶えた人たちはどんな思いで生き、どんな未来を夢見ていたのか、どれだけの痛みと熱さと無念さをもって亡くなったのか、また命を繋ぎとめた方たちの心情・苦悩はどんなものだったのか、平和記念資料館にあるものには目を背けず心に刻まなければならないものとしてしっかり見てくることができました。

戦争で戦い殺しあっているのは、同じ地球上の生物「人間」。互いに同じ生き物が殺し合って何の意味があるのでしょうか。それでもなお無くならない戦争や紛争について他人事とせず歴史的背景を含めて学び、自分にできることは何か考えたいと思いました。

時間をかけて積み重ねた「平和」は、いつでもすぐ簡単に人の手によって壊せてしまうもろいものなのかもしれません。壊した分をしっかりと積みなおすのはとても時間がかかります。これからの未来を明るくし続けるためには「平和」を築き、持続させなければなりません。だからこそ唯一の被爆国である日本の国民として、わたしたちは声をあげ続ける義務があると思います。しっかり繋がなければならないと思います。これ以上過ちを犯さないように。悲しみを繰り返さないために。



「原爆」を世界に伝え続ける

大槻 紗良

私は小学校時代をアメリカで過ごした帰国生です。そのため戦争についての学習をあまりしたことがなく、日本の戦争や原爆がどのようなものだったのかをきちんと知りたいと思い平和の旅に応募しました。

私がこの旅を通して学んだことは二つあります。

一つ目は、原爆の本当の恐ろしさです。原爆投下直後の恐ろしさはもちろんつらく痛ましいものばかりでしたが、投下から７９年経った今でも苦しむ人がいます。被爆者ご本人だけでなく、子供や孫にまで影響があったり、佐々木禎子さんのように、健康で未来に希望を抱いていた普通の少女が、戦後何年も経ってから病気を発症して亡くなってしまったり、罪のない人々の命を長期間にわたって奪い苦しめ続ける放射線の本当の恐ろしさを知りました。

二つ目は、無知や誤解の怖さです。

私は旅のあと、アメリカの友人に「平和の旅」に行った話をしました。その時友人は原爆に関する冗談を言いました。その瞬間、私は平和記念資料館で見た数々の光景や、語り部の方の話が頭に思い浮かび、友人の無神経な言葉にショックを受けました。皮膚が焦げて、包帯を巻いたまま倒れていた人の写真。黒い雨で体に斑点ができて苦しむ人の写真。少しでも長く生きたくて、小さな包装紙で鶴を折り続けた禎子さんの話。その一人ひとりの人生を奪った原爆で冗談を言うなんて、私には信じられませんでした。しかし同時に、友人が育った環境の違いや、原爆の実態に関して無知であることが言葉の背景にあるとも思いました。

海外では、原爆がよく使われる兵器の一つと誤解されていたり、終戦のためには必要だったという人がいたりします。しかし、悲劇を決して繰り返さないために、世界中に原爆の事実や実態を正しく伝え、何があっても二度と使用してはいけない兵器であることを訴え続ける必要があると思いました。世界が平和な未来をともに目指せるように、自分ができることを考えたいです。

message 平和メッセージ

NEVER AGAIN
Peace above all.

平和ということ

黒木　洸

message 平和メッセージ

毎日を一生懸命生きる

今回私が平和の旅に参加する前に、平和というものを考えたとき、明確に定義することはできませんでした。あれだけ学校で平和について学んだのに、いざ考えてみると、結局『平和』ということ、そのイメージが思い浮かびませんでした。なんとなく戦争がないこととしか考えられませんでした。しかし、今回の平和の旅での学習により、一番自分が平和に近いと思う考え方を見つけられました。それは、全ての人の命が尊重され、平等に扱われるということです。

大和ミュージアムに行って戦死者の名簿を見て、その数に身震いしました。太平洋戦争があれだけの命を奪ったのかと思うと、数値としてでなく、名前として刻まれることで、よりその無力さや戦争の無慈悲さが分かりました。戦争という観点から見て、改めて命の重さについて知ることができました。

平和記念資料館での強烈な写真も命について考えられる貴重な学習でした。原爆というものの兵器としての恐ろしさ、人を今なお後遺症やトラウマなどで傷つける残虐さ。特に印象的だったのは、熱線により皮膚がなくなってしまった赤ちゃんの写真でした。あの無力な赤ちゃんが、親を失って、自分も被爆してしまったことを思うと、胸が張り裂けそうで、見るのも想像するのも嫌で目を背けたくなりましたが、直視し、原爆の威力を再確認させられました。当時は建物疎開の最中であったらしく、多くの人の尊い命が、あの恐ろしい力を持った原子爆弾によって奪われたことを想像すると、胸が痛みました。もし自分が被爆したと考えると、それだけでも怖いのに、実際に被爆してしまった方々は、どんな心境なんだろうと思いました。凄惨な資料を見て、戦争は絶対にあってはならないことなんだと、深く思いました。

戦争や原爆について考えるうえで、今回の平和の旅でのショックは自分自身の戦争反対への意識をさらに強めるものとなりました。今現在も世界では戦争が起きています。日本もどうなるか分かりません。でも、今回の学習による重い戦争の愚劣さを知っていれば、より戦争について真摯に考えられると思います。自分一人が考えてどうにかなるわけでもないですが、それでも、どんな命も尊重され平等に扱われる、そんな平和な社会にさせるために、これからも平和について考えていこうと思いました。

旅を経て感じたこと

佐藤 安奈

私は１２月に１泊２日で広島に行き、原爆や平和について考えました。色々な場所で様々なことを学んだので、特に印象に残ったことを説明していきます。

１日目は、大和ミュージアムを見学しました。大和ミュージアムでは、本物の１０分の１スケールで再現された戦艦の模型や、戦争が行われてた時代を中心とした歴史の紹介等、海軍や戦時の呉市の様子について学ぶことが出来ました。「大型資料展示室に展示されている資料や兵器は全て本物です。」というガイドの方の話を聞いて、本物を見れた感動と同時に、とても大きい兵器らは、実際に人を殺すために使用されたものだったという事実を目の当たりにし悲しい気持ちにもなりました。

２日目は平和記念資料館や平和記念公園、本川小学校等、原爆自体と深く関わる地を巡りました。平和記念資料館の展示室に入った途端、世界が一気に暗くなった感じがして瞬く間に、自分が１９４５年８月６日に引き込まれた気分になりました。実際にある遺品や、音声ガイドの解説と共に当時の悲惨さを見て心が凄く痛みました。それと同時に、「絶対に二度と起こしてはいけない事態だ」とも感じました。渡り廊下の途中に置かれている対話ノートには、日本だけではなく他国の方々からのメッセージも書かれていました。私の思いと似たような事を書いていて、国や言語は違えど心が繋がっている感じがしました。

原爆の子の像に行った時は佐々木禎子さんがどれほど周りの人に愛されていたのか、そして今でもどれだけの人が平和を願っているのか、沢山吊るされた折り鶴を見て色々な事を感じ、私も当時亡くなってしまった方々を悼む気持ちで鐘を鳴らしました。

２日間の旅を経て、私は更に平和に対する想いが強くなりました。今まで想像や間接的な表現が多い物語でしか原爆、戦争について理解することができませんでした。しかし、今回実際に起こった当時の話や状況を目で耳で、心で感じ、自分にはどうにも出来ないかもしれないけれど核兵器がこの世から無くなる日まで、平和を祈り続けようと考えました。そして、この平和を後の世代の子達に繋げていくのが私達にできる最善の策だと考えました。

message 平和メッセージ

戦争は〝解決策〟ではない！
～多くの犠牲を生む争いに終止符を～

万人が託した未来

種田 晴月

日本で最後に起きた戦争は、今から８０年前に終戦しました。８０年前はかなり昔のように感じますが、日本に住んでいる８０歳以上の方は基本的に戦争を経験していると言う事であり、計算上、日本人の１０人に１人は戦争経験者です。

その中でも長崎と広島に投下された原子爆弾の被害者を「被爆者」といいます。原子爆弾は普通の空襲とは少し違い、１０年、２０年経ってから症状が発生したり、後遺症が残り続ける、残酷な爆弾です。被爆者の方々は、同じ過ちを繰り返さないように、同じ悲しみを経験しないように日本被団協を設立し、２０２４年にノーベル平和賞を取りました。これは日本が戦争に反対しているように見えますが、実際はどうなのでしょうか。もちろん戦争に反対している人が少ないと言いたい訳ではないです。しかし、心の底から世界平和を目指しているのは被爆者や戦争経験者が大半で、多くの若い人達は興味がないと思います。戦争が「いけない事」というのは分かっていても、具体的に何がどうダメなのか。どこの範囲までなら「自衛」「防衛」になるのか、じっくり考えた人は少ないと思います。少し非現実的な話になりますが、このままだと１００年後、２００年後には再び日本が戦争を起こしてもおかしくないと思います。これから先、平和が「当たり前」の世の中を作るには戦争をしない事、止める事が「当たり前」な常識を作っていく必要があります。

ただでさえ貧困や自然災害で困っている人達がいるのに、戦争を始めるなんて言語道断、あってはならないことなんです。そしてその「あってはならないこと」が過去に起きた、そして今も続いていることに、日本人は危機感が足りていません。

私は今回の平和の旅で様々なことを学びましたが、これからも人が何故戦争をするのか、そして争いを止めるためにはどうすれば良いのかについて考え、行動に移します。戦争が終わるのか、平和な世の中を築けるのかは、貴方次第です。

message 平和メッセージ

もし貴方が当時の日本政府なら、
当時のアメリカ政府なら、被爆者だったら…
「今」できることを世界に

平和を守るために
～僕が広島で学んだ事～

戸田 仁梧

message 平和メッセージ

平和は恒久ではない
今後も平和を一人一人が
守り続けていこう

僕は今回、初めて広島に行き、今まで知らなかった多くの戦争や平和についてのことを知りました。

１日日、まず見た大和ミュージアムでは、戦鑑大和には当時の日本の最高レベルの技術を詰め込んでおり、テレビ以外は何でもあったそうで、その技術は８０年も経った現代でも用いられている程の高いレベルだったという事に驚きました。しかし航空機主体となった戦争で、巨大な戦艦である大和は実際に戦争で使われる事はあまりなかったそうです。そして１９４５年４月７日、襲撃を受けて沈没しました。多くの方が亡くなった大和は今も海の中に眠っています。僕は大和が海の中でバラバラになった映像を見て、あれほどまで大きく、最強ともいわれる戦艦がこんなにもなってしまうという戦争の恐ろしさを知りました。その後行ったてつのくじら館では、戦後に見えない敵「機雷」の除去に苦労されたことを知りました。感知すれば、民間船だろうと何だろうと破壊してしまう兵器の危険性を感じました。

２日目は広島平和記念資料館に行き、原爆という恐しい兵器がどのような被害を与えたのかを学びました。それまでは普通だった広島の街で、一つの爆弾で全てが壊されてしまいました。爆風、熱線、そして放射線により多くの人が亡くなりました。また、生き延びたとしても、放射線による被害が大きかったそうです。僕が今回一番衝撃を受けたのは、「黒い雨」です。原爆投下後に降ったこの雨は放射性物質を含んだもので、黒色だったそうです。しかし僕には、雨が黒いということが想像できませんでした。そして今回実際に壁についた黒い雨を見て、驚きました。本当にこんな真っ黒な雨が降ってきて、喉が乾いた被爆者の人達は飲んでしまい、更に被害に遭った事に。この事から、核兵器は普通の兵器よりも長い期間、沢山の被害を与え続けるという恐ろしさを知りました。

その後はＧ７サミット記念館に行きました。「核兵器のない世界」を目指すためには核兵器による被害を知る必要があるので、大きな一歩だったと思います。しかしそのうち米、仏、英は核兵器を保有していますし、独・伊はＮＡＴＯの核共有協定国、日本も核抑止という意見があります。しかしこの８０年間、日本が戦争に巻き込まれずにこれたのは平和を守り続けたからです。その方法とは、兵器を持つ事で相手を抑止するものではありません。話し合いで、相手と問題を解決してきました。それこそ、恒久ではない平和をより長いものにしていくときに必要なものなのではないでしょうか。僕はそのために、今後も世界で起きている戦争について関心を持ち続け、自分では何ができるのか考えていきたいです。

ヒロシマが私に教えてくれたこと

西田 結海

message 平和メッセージ

一部ではない　一つの命

国の一部でも、戦力の一部でもない。一人一人にはそれぞれ、命、家族、生活、夢、想いがある。
原爆で亡くなった方、戦争で亡くなった方は死者数の一部でもない。私達と同じ、一人一人の人間。

私は今回の広島の旅を通して、戦争にはたくさんの人生が関わっていることを改めて実感しました。平和の旅１日目に大和ミュージアムで目にした戦艦大和で亡くなった方の名簿、２日目に平和記念資料館で見た数々の遺品、原爆で苦しめられた一人一人の証言は印象深く残っています。また、私は広島の平和の旅の後、戦争についてさらに深く知りたいと思い、鹿児島県の知覧にある知覧特攻平和会館を訪れました。そこでも、特攻隊員が飛び立つ前に大切な人へ書いた手紙や遺品を見ました。

戦争は日本という国全体を上げて行われたことです。しかし、その中には戦争に関わった一人一人の想い、夢、大切な人、人生があります。日本が参加した「太平洋戦争」という一つの戦争の中には、そこにいた人それぞれの戦いがあったのだと広島の旅や知覧を訪問して感じました。そして、そのそれぞれの戦いは人によっては終戦後も、現在でも続いているのです。原爆が投下された直後は何でもなかったのに１０年後に突然白血病になった佐々木禎子さんをはじめとした原爆による健康被害を受けた人々、壊滅状態になった広島の街、大切な人を亡くした悲しみなどたくさんあります。そのような悲劇は二度と繰り返してはいけません。原爆ドームや遺品、原爆投下後の広島を写した写真がそれを物語っていました。原爆ドームを見た時、私は原爆ドームだけ戦時中から時が止まっているように思いました。同時に戦争の惨さや平和の大切さ、原爆の恐ろしさを教えてくれているような気がしました。

私は広島を訪問する前、少しでも原爆について知りたいと思い、『はだしのゲン』を読みました。私が『はだしのゲン』を読んでいると学校の何人かの友人から話しかけられ、『はだしのゲン』について質問されたり原爆についての話をしたりしました。すると興味を持った友人が『はだしのゲン』を手に取ってくれました。私は今後もこのように自分の身近な人から広島のことや原爆について伝えていきたいと思います。私一人が伝えられる範囲はとても狭く影響力は弱いかもしれません。しかし、私が伝えた人がさらにまた他の人に伝えてどんどんその輪を広げていけば、次第にたくさんの人に伝わっていくと思います。たくさんの人に、８０年前広島で起きたこと、原爆の恐ろしさについて知ってもらうために今後も発信し続けていきたいです。

平和の旅で広島に行って

八丸 心々菜

平和の旅を通して多くのことを学び感じ考えたので、特に印象的だったことを書きます。

平和記念資料館にある地球平和監視時計には、広島への原爆投下からの日数と最後の核実験からの日数が表示されていました。後者は２２２日と表示されており、１年以内にアメリカで核実験が行われていたことを知り、もしまた日本に原爆が落とされたら平和が失われることにとても怖くなりました。また、展示エリアには当時の写真や手紙などがあり、戦争の悲惨さを想像し鳥肌が立ちました。

資料館には原爆投下前後の原爆ドームの模型が並んでいましたが、全く違う姿でした。現在の姿はテレビで見たことがありましたが、実際に間近で見ることで、骨組みだけの屋根や崩れかけた壁、崩れて跡形もなくなった部分など原爆の威力の凄まじさを感じました。

本川小学校平和資料館には、原爆が投下された位置とその周辺の町の模型がありましたが、広範囲の木造家屋は全てなくなり瓦礫の街と化したことがよくわかりました。

原爆投下で一瞬で命を奪われた人、誰か分からないほど焼けただれ水を求めて川に行った人、放射線の急性障害などで亡くなった人など、その年末までに約１４万人が亡くなったと知りました。生き延びても後遺症で苦しんだ後亡くなった人も多く、原爆の子の像のモデル佐々木禎子さんもその１人でした。禎子さんの甥佐々木祐滋さんから事前学習でお話を伺いました。禎子さんは私たちと同世代で、その時の気持ちを想像すると言葉に詰まります。また、現在も被爆の後遺症認定を国に求めている人がいることが戦後８０年経つのに過去から現在に続く原爆の残酷さを表しているのだと改めて思いました。

今回の旅は、戦死した人や被爆死した人などの無念さや辛さ、遺族の思いなどを深く考える機会になりました。現在も外国では戦争でたくさんの人が亡くなっているからこそ、戦争は絶対にいけない、地球に２度と原爆が投下されることのないように、私は核兵器を廃絶するべきだと思います。

昨年末ノーベル平和賞を日本被団協が受賞し、高校生平和大使の会見の「ビリョクだけどムリョクじゃない」という言葉が胸に刺さりました。戦争は悲劇を生むけれど幸福は生まれないと思います。風化されないよう、自分には関係ないではなく、何ができるかを考え続けることが大事だと思いました。

message 平和メッセージ

戦争時に生きることの大変さを知り、平和に生きれることに感謝する

平和の旅に参加して学んだこと

福田 奈央

私はこの平和の旅に参加し、８０年前に悲惨な出来事があった場所を訪問することで、一般市民を巻き込んだ戦争の悲惨さを実際に目の当たりにし、深く理解することができた。原爆ドームや平和記念公園では、戦争でどれだけの多くの命が失われ、年月が経った今でも苦しみが続いていることを知った。資料館で見る被爆者の証言や遺品は戦争を知らず、初めて広島を訪問した私には衝撃的だった。また、アメリカの軍事記念館で見た第二次世界大戦の見せ方との大きな違いに、敗戦国と戦勝国の紹介の違いのギャップに戸惑いをおぼえてしまった。

大和ミュージアムへ訪問した時、戦艦大和を中心とした日本の戦争の歴史や当時の技術力について驚かされた。展示されている精巧な戦艦の模型や実際に使用されていた遺品から、人々が当時最先端の技術と努力を重ね、何を守ろうとしていたのかを感じ取ることができた。

もちろん、誰もが戦争を望んでいるわけではない。戦争が起こる前に長い話し合いが持たれたに違いなく、８０年前の戦争もその話合いの延長に起こった出来事に違いないと思う。また、８０年前に人類はこのような悲劇を起こしたにもかかわらず、いまだに世界のどこかで戦争が起こっている。私は戦争の背景には、歴史、宗教、民族の対立など様々な問題があり、単純に一方の国を非難する事は避けたい。戦争は偏った意見や情報だけではなく、両方の国の事を聞き、調べ、学び、判断していかなければいけない。今、私は外国語を学び、将来、国際的な仕事をし、世の中の役に立つ人間になりたいと考えている。その為には単純に言葉によるコミュニケーションだけでなく、お互いの事を理解し、尊重する気持ちが大切だと思う。その気持ちを持つ事が、少しでも大きな対立を避ける事が出来るのではないかと考えた。

今回の平和の旅を通して、平和のために私が出来る事は何なのかを、広島の平和の旅の終わりに深く考えさせられた。

message 平和メッセージ

本当の事を知り
今の暮らしに感謝